

3月の日照時間は観測値としては最も少なく、平年の60%しかありませんでしたが、4月に入っても少ない傾向が続いており、20日までで平年比の79%にとどまっております。特に4月中旬は日照が平年比の49%しかなく、気温も依然として低く推移しております。

## 先週発生している問題事例

### 1、高温障害

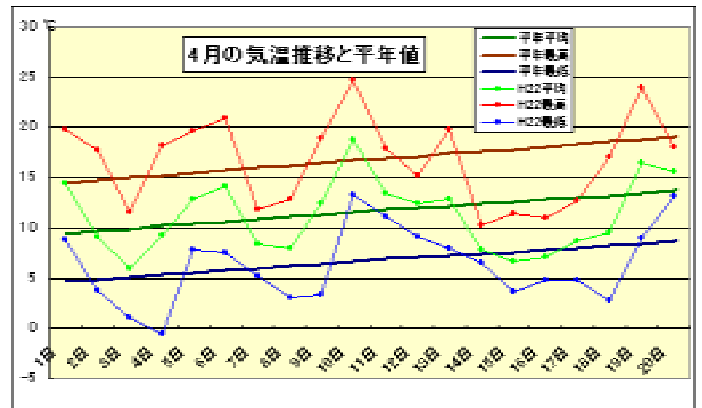
曇天、低温が続いている中、ハウス内においては高温による野菜の障害がかなり見られております。これは外気温が低いため、晴天日であっても換気量が不足しており、しばらくの晴れ間であってもハウス内気温が急上昇するためです。19日の月曜日でも、換気がされていないハウスでは50に達しておりました。このため、苗が枯れ上がる被害が出ております。ハウスを離れる場合は、曇天であっても必ず換気を行うようにして下さい。

### 2、キノコバエの発生

キノコバエは小さなハエの仲間で、生ゴミにたかるコバエよりも小型です。このハエは完熟していない堆肥に卵を産み付けますが、こうした堆肥がハウス内に散布されていますと、気温が上昇するこの時期に孵化してきます。特に湿気の多いハウスに目立ちます。このハエの糞が生産物に付着し商品価値を著しく落とします。施用される堆肥の吟味は勿論、ハウス周辺の排水を徹底し、ハウス内をできるだけ乾燥した環境にすることが肝要です。

### 3、苗のすくみ

3月下旬からミディトマト、3月末からはマルセイユメロンが定植されていますが、地温が低いため、根の伸張が緩慢となっており、なかなか大きくなってゆかない状況が見られます。メロンは当JA管内で栽培されている野菜品目の中では最も低温に弱く、地温が15以下では根はほとんど動き出してきません。今月末までは夜間の低温に備えて、保温資材を準備しできるだけ保温に努めて下さい。また、ミディトマトの生育不良はマルチの選択による違いが際立ってきています。透明マルチをされた方は良い生育をしています。白黒ダブルマルチを使われている方にトラブルが多くなっています。このマルチは地温の上昇を抑制する機能を持っているため、抑制作(5月中旬以降定植)に使うもので、春作は透明若しくは緑マルチの使用を指導しています。



コマツナの高温障害



ミディの高温障害



キノコバエの白い糞



ミディの低温障害



#### 4、ブロッコリーの苗傷み

殆ど定植は済んでいます。育苗中の不良環境で柔らかい苗が多くなったため、定植後の強い風とたまたまの高温により、下葉が傷んでいる状況が見られています。症状は軽微であるため生育に大きな影響はないと思われそうですが、苗が大きくなるにつれ、風による株元の揺さぶりが続きますと、根朽病による立ち枯れが多発する恐れがありますので、フラフラしている苗は株元に土を寄せて下さい。



苗のすくみ

今年の天候は、いつもにない状況です。育苗や栽培管理において例年と同じように管理されていても、今年は上手くゆかないといった事が発生しやすい環境にあります。ハウスを巡回して見ますと、最高裁低温度計の設置されているハウスが実に少ないことです。水稻の育苗についても同じですが、地中温度計を含めて必ず設置しておかなければならないグッズです。さらに、マルチなど指導内容を無視して、不適切な資材が使用されていたり、定植始めについての申し合わせを守らない。プラグ苗を鉢上げ育苗せずに直接定植してしまうなど、トラブルを起している圃場では指導事項を守っていないというケースが非常に多いという現実があります。



マルチがめくれ傷んだミディ

#### 窓口対応の農力アップメモ 有機質肥料や堆肥を使うと野菜は美味しくなる？

よく、有機を使っているからとか堆肥を入れているから美味しくなると言ったことを聞きます。これは本当でしょうか？ まず、農業試験場など公共的な機関で、このような肥料・このような堆肥を使うと野菜は美味しくなると言った因果関係についてはっきりした証明はありません。また、水耕栽培やロックウール栽培された野菜がまずいとといった試験結果もありません。つまり有機や堆肥の使用が野菜を美味しくするという方程式は成り立っていないのです。

お米については美味しさを点数に表して評価するようになってきました。この場合は、お米の中のタンパク質の含有量の多寡が美味しい、美味しくない、の判断基準となっています。野菜においても窒素の含有量が高いと不味いという傾向があるようです。では、なぜ有機や堆肥を使うと美味しい野菜が出来るかといった話が出てくるのでしょうか？ 根拠は分かりません。私的見解としてですが、

肥料分が化成肥料より一般的に長くゆっくりと穏やかに効くため、植物が無理なく生育し養分の蓄積が効率的に行われる。

植物は根から養分を吸い上げるわけですが、根の内部に養分が取りこまれるためには、養分がかなり小さな分子の形まで分解されなければなりません。この際に、味に關与する低分子のいくつかのアミノ酸が直接植物体に取り込まれる。

といったことが考えられます。しかし、とも化学肥料を使う場合でも、追肥の施用の仕方や特定の合成アミノ酸を与えることにより同じような条件を与えることが可能です。要は、植物を適正な栽培環境、適正な栽培管理のもとで健全に育てることにより、光合成能力を高め、十分な栄養を貯め込む体づくりを応援することが、美味しい野菜を作るコツではないかと思えます。

#### 夜間温度の確保と言うが加温機がないと温度を維持する方法がないのでは？という疑問。

その通りですが、するべき対策はあります。ハウスの隙間を点検し、できるだけ塞ぐ。ハウス内温度が高いうちにハウスを閉める。ハウス内トンネルを設置し、パオパオなどの保温資材をベタがけとし、トンネルにビニールなどを挿けて二重に被覆する。こうすれば日中の蓄熱が夜間放射されることにより、寒さがいくらかでも緩和されます。このちょっとした差がその後の生育に大きく違ってきます。

